

		事業担当局	まちづくり局
計画名	都市再生整備計画 小杉駅周辺地区	都市再生整備計画の計画変更	有 無
1 制度について	<p>国は全国の都市再生を推進するため平成16年4月に「都市再生特別措置法」を制定した。国の定めた「都市再生基本方針」では、大都市圏や地方都市における都市機能の高度化、地震や交通事故などの解消、安心して快適な都市の実現、自然と共生した持続可能な社会の形成などを目標としている。この法律、基本方針の制定と併せ「まちづくり交付金交付要綱」が制定され、市町村は国の都市再生基本方針に基づき都市再生整備計画を定め、都市再生整備計画に基づく事業に対して、原則40%の交付金を受けることができるとされている。</p>		
2 評価委員会について	<p>評価委員会の目的 事後評価等が適切に行われたことを中立・公平な立場で確認していただき、意見を求めること、及び今後のまちづくり方策等についても意見を求めることを目的とする。</p> <p>審議事項について ・事後評価原案の公表等の手続きの妥当性及び都市再生整備計画の目標・成果指標の達成度、効果発現要因の分析の妥当性。 ・事業成果、残された課題の整理と、今後のまちづくり方策の妥当性。</p>		
3 都市再生整備計画の概要と実施事業（別紙資料1参照）	<p>計画期間 平成17年度～平成21年度</p> <p>全体計画事業費 27,218百万円</p> <p>計画の目標 「広域的な交通利便性が高く、商業・業務、研究開発、文化交流、都市型居住の機能が集積した広域的拠点の形成」</p> <p>目標1：交通結節機能を強化し、広域的な交通利便性を向上させる 目標2：都市基盤施設を整備し、土地の高度利用を図りつつ安全・安心・快適な回遊空間をつくる 目標3：商業・業務、研究開発、文化交流の3つの地域特性を活かしながら機能集積を図りつつ、都市型居住機能を導入する。</p> <p>計画に位置付けて実施した事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵小杉新駅交通広場〔基幹事業〕 2,181百万円 ・ 武蔵小杉新駅交通広場（水路舗装）〔基幹事業〕 116百万円 ・ 武蔵小杉新駅接続通路〔基幹事業〕 162百万円 ・ 武蔵小杉新駅駐輪場〔基幹事業〕 410百万円 ・ 新丸子東37号線電線共同溝〔基幹事業〕 71百万円 ・ 武蔵小杉駅北口EV〔基幹事業〕 65百万円 ・ 人道地下通路〔基幹事業〕 795百万円 ・ 下沼部30号線〔基幹事業〕 23百万円 ・ 東街区再開発事業（駐輪場）〔基幹事業〕 16百万円 ・ 武蔵小杉駅南口地区西街区（再開発）〔基幹事業〕 1,099百万円 ・ 武蔵小杉駅南口地区西街区（小杉第1公園）〔基幹事業〕 446百万円 ・ 武蔵小杉駅南口地区西街区（地区幹線道路1・2・3号）〔基幹事業〕 784百万円 ・ 住宅市街地総合整備事業〔基幹事業〕 4,008百万円 ・ 武蔵小杉新駅設置事業〔提案事業〕 8902百万円 ・ 自転車利用適正化〔提案事業〕 28百万円 ・ 東京丸子横浜線（市ノ坪工区）〔基幹事業〕 3,771百万円 ・ 丸子中山茅ヶ崎線（小杉御殿工区）〔基幹事業〕 1,156百万円 ・ 中原消防署〔提案事業〕 1,042百万円 ・ 中原市民館〔基幹事業〕 2,400百万円 ・ 案内サイン設置〔基幹事業〕 40百万円 ・ 快適回遊空間形成推進事業（案内サイン計画策定業務）〔提案事業〕 3百万円 		

4 実施過程について

住民参加プロセス
 小杉駅周辺地区まちづくり戦略会議の実施。
 エリアマネジメントの視点から、開発・再開発事業を契機とした地域資源活用による活性化方向を検討した。
 持続的なまちづくり体制の構築
 特定非営利活動法人である小杉駅周辺エリアマネジメントを設立。
 地域コミュニティ形成のための各種イベント開催、子育て支援、広報誌配布、自転車放置対策等を実施。

5 成果の評価・効果発現の整理（別紙資料2参照）

成果指標の達成状況

指標	単位	従前値	目標値	実績値	目標の達成状況
駅乗降客数	人	197,000	227,000	292,800	達成（見込み）
道路の混雑度	-	1.60	1.25 以下	-	未達成
武蔵小杉駅南口駅周辺の駐輪需要対応率	%	約 65	約 80	78	概ね達成
住宅供給戸数	戸	約 1,000	約 5,000	5,308	達成
市民館施設の稼働率	%	約 62%	約 70	66	概ね達成

その他指標

市民館施設の使用コマ数	コマ	8,383 コマ	-	10,014 コマ	-
東京丸子横浜線用地取得率	%	68%	-	99%	-

以上により、成果指標については概ね目標を達成する見込みである。
 効果発現の整理については別紙資料2に記載。

6 まちの課題の変化

- ・ 複数の都市型超高層住宅の供給や、研究開発機能の集積が進む一方で、鉄道ターミナル付近を JR 横須賀線が通過しており、当地区の潜在力を活用しきれていない状況にあったが、武蔵小杉新駅の設置や交通広場の整備により、交通結節点としての機能強化を図ることができた。
- ・ 交通結節点にありながら基盤整備が遅れており、都市計画道路等の都市基盤施設整備を重点的に実施する必要があったが、未整備区間が残っているため、引き続き整備を推進する必要がある。
- ・ 平坦な地形に位置し、基盤が未整備で駐輪場が不足している当地区では、駅周辺や商店街等における放置自転車が極めて多かったが、新駅に隣接して駐輪場を整備した。今後も課題解決に向けてさらに駐輪場を整備する必要がある。
- ・ 老朽化した公共公益施設が点在し、文化交流の拠点としての役割を十分果たせていない状況にあったが、中原市民館の整備により公共施設の再編を図った。引き続き、再開発事業に伴い都市機能の戦略的な誘導を行い、文化交流施設の整備を進める。

7 今後のまちづくり方策

- ・ 整備課題が残っている、東京丸子横浜線（市ノ坪工区）、丸子中山茅ヶ崎線（小杉御殿工区）、地区幹線 1・2・3 号線の道路整備を引き続き推進する。
- ・ 商業・業務、住宅等の都市機能の集積のため、小杉駅南口西街区市街地再開発事業を、引き続き進める。
- ・ 文化交流施設の整備（図書館を小杉駅南口西街区に予定）については平成 24 年までに整備することとし、自転車駐輪場整備については平成 26 年までに約 1,000 台を整備する。

今後のまちづくり方策は、まちづくり交付金事業の実施による成果や効果発現の分析、残された課題の整理に基づき、今後の方向性を提案するもので、次期（ 期）まちづくり交付金事業に反映させるものです。

<p>8 公表 について (別紙資料3参照)</p>	<p>事後評価の公表と意見募集について 次の方法により事後評価原案の公表及び意見募集を行った。 ・市政だよりにて事後評価原案の公表・市民意見の募集について広報(平成21年9月1日発行・544,000部) ・市ホームページに事後評価原案の公表・市民意見の募集を掲載(掲載期間:平成21年9月1日~10月6日) ・各区役所、支所、出張所、連絡所、行政サービスコーナー等に事後評価原案の公表・市民意見の募集のパンフレットを配布(配布期間:平成21年9月1日~10月6日・155部配布)</p> <p>意見募集の結果について 実施事業に対する意見 ・現状の駅構内の人々の動線について交通整理がしっかりとしたものではないため改善して欲しい。 今後のまちづくり方策についての意見 ・まち全体の近代化や生活の利便性が高まっている感じはするが、大気汚染や騒音問題など環境に対する影響が懸念される。 ・武蔵小杉の歴史や多摩川、等々力緑地などの自然も鑑みてそれらと調和したまちづくりをしてもらいたい。</p>
<p>9 今後の スケ ジュー ル</p>	<p>今後のスケジュール(予定) 平成21年12月 国土交通省へ事後評価シートを提出 平成22年 3月 事後評価の公表(市ホームページに掲載) 平成22年 7月以降 フォローアップの実施(見込み値で計測した成果指標について確定値を計測し公表する)</p>